

第1学年 外国語科（英語コミュニケーションⅠ）学習指導案

指導者：京教 太郎

指導教員：附属 花子

1. 日時 令和〇年〇月〇日（〇曜日） 第〇校時(〇:〇〇~〇:〇〇)
2. 学年・組 第〇学年〇組 計〇名
3. 場所 第〇学年〇組 教室
4. 単元名 *BLUE MARBLE English Communication I*（数研出版）
Lesson 5 A Journey to Peace
Part 4 According to Louise, what is the key to peace? (pp.76-77)

5. 単元の目標

ルワンダの内戦を生き延び、現在は平和活動家として活躍する Marie Louise Kambenga 氏に関する文章を通して、英文を理解し、概要や要点、詳細を捉えるとともに、その内容から自分の考えをまとめ、伝え合うことができる。

（知識及び技能）

- ・ 英文の意味を理解し、この文章の主題である平和維持と教育の重要性を理解することができる。
- ・ 知覚動詞・使役動詞を伴う英文を正しく理解し、自身の発信においても正しく使うことができる。

（思考力、判断力、表現力等）

- ・ 本文の内容を十分に正しく理解した上で、他者に伝えられることができる。
- ・ この文章の主題である平和維持と教育の重要性を理解した上で、この内容をひとつのきっかけとして、世界的諸問題に教育がどう貢献できるかを考えたり、話し合ったりしている。

（学びに向かう力、人間性等）

- ・ 世界的な社会課題を扱う英文を通して、さまざまな課題に対する意識を高めている。
- ・ 英文の正しい理解に積極的に取り組み、自身の読解力・発信力の向上につなげている。
- ・ この文章の主題である平和維持と教育の重要性についての理解を深め、よりよい社会のためにできることについて考えることができる。

6. 単元について

①教材観

本単元は、ルワンダの内戦を生き延び、平和のためにルワンダの教育の発展に貢献する Marie Louise Kambenga という人物に焦点を当てており、戦争や紛争などをなくすためには何が必要なのか、日本や海外の教育の現状や課題などを考えさせるような教材となっている。本文は、全体を通して彼女の人生について時系列順に展開されているため比較的理解しやすい。

本時で扱う Part4 の本文では、ルイズが考える平和を実現する方法である教育について触れられており、Lesson のまとめの内容である。本単元に含まれる言語材料には分詞や、本文理解の上で重要なディスコースマーカーが含まれている。

②生徒観

生徒は中学時点で分詞の後置修飾について学習しており、現在分詞や過去分詞については学んだことがある。一方で、本単元で扱う分詞の表現は高校で初めて学習する内容となっている。

また、生徒は活動に積極的に取り組もうとしている。ペアワークでの話し合いもすべてのペアが熱心に話し合い、問いに対する答えを見つけようと活動している。さらに、集中するときと活動するときのメリハリもきちんとつけることができている。一方で、英語が得意な生徒とあまり得意ではない生徒の差があるようである。難しい問題にも積極的に手を挙げて答えようとしてくれる生徒もいれば、指名されても答えが分からずに黙り込んでしまう生徒もいる。しかし、ペアワークの中で、得意な生徒が苦手な生徒に教え合いをしているペアも見られた。

③指導観

分詞については、現在分詞・過去分詞など中学生の時に学習した内容と関連付けて指導を行うことで、生徒が全く新しいものを学習していると感じないように指導する。

また、ペアワークを多く取り入れることで、授業内で指名された数人だけでなく、多くの人が活動に参加できるよう配慮する。また、全体で活動する際にも最初から生徒を指名して答えさせるだけでなく、個人やペアで考えを持ってから指名することで全員が授業に参加しているという意識をもてるよう指導する。

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・文章を読み取るために必要となる語彙や表現を理解している。</p> <p>・Marie Louise Kambenga という人物に関する文章を読み取る技能を身に付けている。</p>	<p>自分の考えを発表することができるように、Marie Louise Kambenga という人物に関する文章を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、Marie Louise Kambenga という人物やルワンダの内戦について聞いたり読んだりしたことを基に、平和や教育について考えたことを理由とともに話して伝えている。</p>

8. 指導と評価の計画（全6時間）

時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等
1	<p>■単元のテーマであるルワンダや大量虐殺に対する生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>■単元のテーマに関する情報を共有する。</p>	<p>・ペアでの話し合い活動の状況から「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
2	<p>■教科書 Part1 の本文から必要な情報を得たり、特定部分の要点を捉えたりする。</p>	<p>・ペアでの話し合い活動や授業内での発表の状況から「知識・技能」を評価する。</p>
3	<p>■教科書 Part2 の本文から必要な情報を得たり、特定部分の要点を捉えたりする。</p>	<p>・ペアでの話し合い活動や授業内での発表の状況から「知識・技能」を評価する。</p>
4	<p>■教科書 Part3 の本文から必要な情報を得たり、特定部分の要点を捉えたりする。</p>	<p>・ペアでの話し合い活動や授業内での発表の状況から「知識・技能」を評価する。</p>
5 (本時)	<p>■教科書 Part4 の本文から必要な情報を得たり、特定部分の要点を捉えたりする。</p>	<p>・ペアでの話し合い活動や授業内での発表の状況から「知識・技能」を評価する。</p>
6	<p>■本単元で学習したことの中で、印象的だったことについてペアで共有する。</p> <p>■本単元で学習した内容を参考に、平和の実現のために必要なことを自分で考え、英語で書く。</p>	<p>・ワークシートを配布し、その概要・要点・詳細の記載状況から「思考・判断・表現」を評価する。あわせて、「主体的に学習に取り組む態度」も評価する。</p>

9. 本時の学習

①本時の目標

文章を読み取るために必要となる語彙や表現を理解し、教科書から必要な情報を得たり、特定部分の要点を捉えたりすることができる。

②本時の展開

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援 (教師の活動)	評価規準 評価の観点・方法
導入 5分	<p>1.前時の復習</p> <p>2.新出単語を理解する。 ・全体で確認する。</p> <p>・ペアワーク</p>	<p>・ペアで Part3 の内容について話し合わせる。</p> <p>・指名し、Part3 の内容について、パラグラフごとに一言ずつ発言させる。</p> <p>・ワークシートを配布し、音声が続いて発音を確認させる。</p> <p>・発音やアクセントで間違いがあったところ、生徒が不安そうに感じているところがあれば、全体で確認した後、もう1度音声が続いて発音を確認させる。</p> <p>・日本語を見て英語の単語を答える練習を1分間する。</p> <p>・ペアで、一方が日本語を言い、もう一方が英語の単語を答える。(30秒×2)</p>	<p>・新出単語の発音やアクセントに注意して正しく発音することができるか。</p>

<p>展開 40分</p>	<p>3.本文のリスニングをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで本文を見ながら本文を1回聞き、クイズに取り組む。(2分) <p>4.本文を1文ずつ解釈・確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一文ずつペアで交代しながら解釈させる(不明点があれば、マークしておく) ・Key Phrases の意味と1文目の SVOC と8文目の SV をペアで確認する。 ・単語や重要な文法事項に注意しながら本文の解釈をする。 	<p>大まかな内容理解を確認するためのクイズを2台、スクリーン上に投影し、答えを考えながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで答えを確認する。その後、答えを生徒全員に挙手させる。(各自の答えを指で示させる。) <p>・話合わせている間に sentence #13 を板書しておく。</p> <p>・1文目は、be caused と by の意味、Key Phrases の a lack of の意味に注意して、/ごとに生徒を指名して訳してもらう。</p> <p>(以下、中略)</p>	<p>教科書から必要な情報を得ることができるか。</p>
-------------------	--	---	------------------------------

	<p>4.本文を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体でコーラスリーダーディング ・音声に合わせてオーバーラッピングをする。 ・ペアで音読 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉にオーバーラッピングで1回音読をさせる。 ・ペアで音読 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出単語の発音やアクセントに注意して正しく発音することができるか。
<p>まとめ 5分</p>	<p>5.Your Opinion</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ What dreams do you think school children in Rwanda have for the future? について日本語で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダの子どもたちについて情報を復習する。 ・ルワンダの貧しい子どもたちはもともと学校に行くことができていなかった。(Part1より) ・ルイズが学校を作ったことにより、すべての子どもたちが学校に行くことができるようになった。(Part4より) 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、自分の意見を理由とともに話して伝えているか。

③板書計画

13.She keeps sharing her experiences / with people / in both Rwanda and Japan.
keep doing 「～し続ける」

(スクリーンに映すものは別に添える。)

④準備物

- ・単語シート
- ・本文ワークシート